理想のまちは、なんとかなるまち！？

石阪　今回の座談会のテーマは、“だれにとってもやさしいまち”“だれもが暮らしやすいまち”です。玉置さんとLeinaさんにとって、それはどのようなまちですか。

玉置　「なにかあってもなんとかなる」と思えるまちです。障がいがある人は外出時に「困ったときにどうしよう」「助けてくれる人がいるか不安」と心配しがちなのですが、なにかあったら助けてくれる人がいると思える環境があるだけで大きな安心につながります。以前の私は人に頼ることが苦手で、困ってもだれかに手助けをお願いできなくて車椅子で外出することがほとんどできませんでした。でも勇気を持って一歩踏み出したら階段や段差で助けてくれる人がいて、そのことで前向きな気持ちになれました。

Leina　すべての人が生きやすさを感じるまちではないかと思います。マイノリティーだったり、ひとり親で大変だったり、経済的な理由でいろいろ我慢しなければならないなど、生きにくさを抱えている人は少なくないですよね。では、どんな社会ならそういう人たちが生きやすさを感じられるか考えたら、それは一人ひとりの個性が認められて、尊重される社会ではないでしょうか。漠然とした答えだけれど、だれもが未来に希望や可能性を感じて、やりたいことに挑戦できるまちであればいいなと思います。

石阪　町田がもっといいまちであるために、行政や社会にやってほしいことや望むことはありますか？ 若い人の考えをぜひ聞かせてください。

Leina　育った環境とか、障がいのあるなしにかかわらず、町田で暮らすすべての子どもが、いろいろなことに挑戦できる、なんでもやりたいことにチャレンジできるまちになればいいなと思います。困難を抱えているから我慢するとか、諦めるのではなくて、だれもがなんでもチャレンジできる環境があることは、生きやすさにもつながるのではないでしょうか。

玉置　障がいのある人に対して、柔軟な対応ができるまちであればいいなと思います。障がい者といっても身体の状態や環境は人それぞれで、ニーズにも違いがあります。障がい者としてひとくくりで見るのではなくて、一人の人として関わるというスタンスって大切だと感じています。それから、この人は障がい者というフィルターがかかってしまうと、障がい者としてしか見られなくなってしまうこともありますよね。その人の中で障がいは一部分でしかないから、他の部分も見てほしいというのは常々思っています。

石阪　お二人の話を聞いていて思うのは、住みやすいまちであるために“気付く”努力を怠ってはいけないということです。生きづらさを抱えている子や、障がいがある人が目の前にいたら、なにに困っているのか気付くこと。そして気付いたら見過ごさずに、自分がやれることを探す。社会にとっても、行政にとってもそれはとても重要だと思いました。

暮らしやすい社会のために自分だからできることがある

石阪　先ほどは社会や行政に望むことを伺いましたが、では、理想のまちや社会を実現するために、自分たちができると思うことや、やっていきたいことはありますか。

Leina　選挙に行くことは私たちができる大きなこと。だから、選挙の日にはSNSで「今日は選挙に行こう！」と呼び掛けているんです。私は音楽を通してさまざまなメッセージや思いを表現してきました。それはこれからも続きます。もっと勉強を重ねて、政治とか社会に関心が向くような発信をしたり、世の中がいい方向に動くように楽曲を含めて言葉にしていくことが私にできることだと思います。

玉置　SNSでの発信やモデル活動などで、障がい当事者である私が積極的に表に出ていくことが私にできることなので、それを続けて、見逃されがちな当事者の声を拾ってもらえる機会を増やしていきたいですね。自分の声だけでなく、当事者の方がどんな思いを持っているのか、一人ひとりに寄り添って聞いたうえで、それらの声も発信できたらいいなと考えています。

コンサートやトークショー意欲的に挑戦する2025年に

石阪　今年の抱負について伺います。なにか挑戦したいことはありますか？ 実は、私には温めている思いがあります。町田には1978年に開館した800人規模の市民ホールがありますが、2000人、3000人収容できる本格的なコンサートホールがありません。大規模ホールを誕生させるプロジェクトを始動したいですね。

Leina　実現できたら、ぜひライブをしたいです。今年もこれまでと同様に自分がよいと信じる音楽を届けていきたいし、アーティストとしても、人としても成長していきたいですね。3月には横浜にある2000人収容のライブホールでコンサートをすることが決まっています。

玉置　市長が選択肢の話をされていましたが、私にはずっと持ち続けている「障がい者の選択肢を広げていきたい」という大きな夢があります。その第一歩として、今年は講演会やトークショーなど話す機会を増やして、当事者としての思いを届ける活動に軸を置くつもりです。

まちだも、世界も、あなたも無限の可能性に満ちている

石阪　町田の未来を背負って立つ、子どもたちや同世代の方へのエールをお願いします。

玉置　ハンディキャップがあってできないと諦めていたことが、人との出会いによって、できるに変わった瞬間をたくさん経験しました。ハンディキャップがある人も、ない人も、いろいろな挑戦や経験をしてほしいですね。一旦は諦めなければならなかったとしても、「なんとかなる」という気持ちでなにかを変えてやってみればできるかもしれません。目の前にチャンスがあるなら、どんどんつかんじゃいましょう！

Leina　振り返ると我が家は楽器やおもちゃをふんだんに買い与えてもらえる環境ではなかったけれど、音楽が好きという気持ちだけでやってきました。今、苦しい状況にあったとしても、世の中は可能性に満ちあふれていることをぜひお伝えしたいですね。助けてくれる人だっているし、なんでもできるし、なんにでもなれます。大切なのは根拠のない自信を持つことと夢を信じ込むこと。私も夢を追っている途中なので、一緒に頑張りましょう！

石阪　大きい夢でも、小さい夢でも、夢があったらなんとかなる！ いろいろなことを経験していってほしいですし、なんでもできるし、なんにでもなれるという気持ちを町田の若い世代が共有してくれたらうれしいですね。その思いをサポートできるよう、これからも町田市では、だれにとってもやさしい、だれもが暮らしやすいまちづくりを行ってまいります。本日はありがとうございました。

玉置さんの講演会を開催！詳細は本紙６面へ

玉置陽葵さん
市内在住の大学1年生。SNSを通じて、日常生活を前向きに楽しむ様子を発信し、同世代を始めとする多くのフォロワーから支持される。障がい者専門の芸能事務所に所属し、モデルとしても活躍中。

Leinaさん
町田市出身の19歳でシンガーソングライター。楽曲、アートワーク、映像作品などのすべてをセルフプロデュース。人の弱さや醜さ、美しさ、儚（はかな）さを描写する歌詞と心に響くメロディーが魅力の実力派。